

# PRSJ NEWS

2023年5月号 No.351



PRSJ 事務局近くから見える夜景

## TOPICS

### MESSAGE

「想像力」と「創造力」

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 理事 福田将吾

P 3

### 5月入会の皆様のご紹介

P 4

### ATTENTION

調査レポート「パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査」

P7



公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

発行人：理事長 牧口 征弘

## 目 次

5月~6月スケジュール		P1
MESSAGE(メッセージ)	「想像力」と「創造力」	P3
新入会員紹介ページ	5月入会の皆様のご紹介	P4
ATTENTION(お知らせ)	第34回1次試験申込み受付6月1日(水)から開始	P5
	パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査レポート	P6
//	「パブリックリレーションズ入門 Web 講座」5月開講	P7
BULLETIN(活動報告)	第42回広報ゼミ開催レポート(会員限定)	P11
	第22回企業部会フォーラム開催レポート(会員限定)	P11
PRSJ in MEDIA	掲載情報	P12
事務局だより		P13

## 5～6月 セミナー・イベント スケジュール

### 【オンライン】

第49回PRスキル研究会

日時 : 5月16日(火) 18:00～19:00  
テーマ : 最新危機事例・炎上事例から学ぶ危機管理広報  
講師 : (株)エルテス マーケティング・広報 責任者 奥村高大氏

### 【オンライン】

パブリックリレーションズ入門 Web 講座 2023

日時 : 5月18日(木) <予定> から通年開講  
講師 : 東京都市大学 都市生活学部 / 大学院環境情報学研究科  
准教授 北見幸一氏他、全9名

### 【オンライン】

第225回定例研究会

日時 : 5月24日(水) 14:00～15:20  
テーマ : ネットにおける情報流通の現状とPRパーソンの「メディアリテラシー」～ネットに溢れる情報をいかに見極め活用すべきか～  
講師 : ジャーナリスト / (株)メディアコラボ 代表 古田大輔氏

### 【関西部会主催】

第289回定例会

日時 : 6月7日(水) 16:30～17:30  
テーマ : 大阪中之島ミュージアム社長 PFIで拓く新しい美術館  
講師 : 曾根宏司氏  
会場 : 中央電気倶楽部

## 5月～6月の理事会・委員会・部会スケジュール

◇定例理事会	(5月度)	日時	: 5月11日(木)	16:00～17:30
		会場	: 事務局+オンライン	
	(6月度)	日時	: 6月8日(木)	16:00～17:30
		会場	: 霞会館+オンライン	
◇教育委員会	(5月度)	日時	: 5月17日(水)	13:30～15:00
		会場	: ハイブリッド開催	
◇資格委員会	(5月度)	日時	: 5月25日(木)	14:00～15:30
		会場	: ハイブリッド開催	
◇国際・交流委員会	(5月度)	日時	: 5月8日(月)	16:30～17:30
		会場	: オンライン開催	
◇広報委員会	(5月度)	日時	: 5月25日(木)	16:00～17:00
		会場	: オンライン開催	
◇顕彰委員会	(5月度)	日時	: 5月22日(月)	16:30～17:30
		会場	: オンライン開催	
◇企業部会幹事会	(5月度)	日時	: 5月10日(水)	17:00～18:00
		会場	: 事務局+オンライン開催	
◇PR 業部会幹事会	(5月度)	日時	: 5月16日(火)	16:00～17:00
		会場	: オンライン開催	

## 「想像力」と「創造力」



公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 理事  
福田将吾 ((株)JERA 広報室長)

2022 年度の通常総会において、新任の理事ならび広報委員会副委員長を拝命いたしました。会員の皆さまはもとより、本協会の発展に微力ながらも貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。これまで関わらせていただきました企業の皆さま、メディアの皆さま方には大変お世話になり、様々なことをご教示賜りました。こうしたご恩を少しでもお返しするためにも、皆さまのご指導もいただきながら貢献してまいりたいと考えております。

私は 2007 年から一貫して広報業務を担当してまいりました。振り返れば、常に新しいことを模索しながら走り続けてきたように思います。現在勤務している JERA は 2019 年 4 月に本格的に事業活動をスタートさせた新しい会社で、私もそのタイミングで着任しましたが、世間からほぼ認知されていない状態からの業務開始でした。知名度向上に加え、事業内容も社会に理解いただく必要がある。そうした中でどのような活動を展開していくのか、白紙のキャンパスに絵を描くイメージで進む道を模索してまいりました。求める水準には未だ至っていませんが、プロ野球セ・リーグの協賛や CM 制作～出稿、HP リニューアル、オウンドサイト立ち上げなど、様々な打ち手を施しています。また、JERA で働く前は日本野球機構 (NPB) で勤務、2015 年より野球日本代表「侍ジャパン」の広報担当でした。2017 年ワールドベースボールクラシック (WBC) の準決勝敗退に伴い小久保裕紀監督が退任し、稲葉篤紀監督が就任、WBC 敗退で落ち込んだ侍ジャパンへの期待や注目度を上げていかなければならないタイミングで、日本代表の広報活動の舵取りを任されました。日本代表の試合開催以外の時期での露出等も増やし価値や存在感を高めていく方向性を打ち出し、従来にはない施策を検討し、数多くの方々のご協力をいただき実行できました。それ以前は東京電力でメディア対応を長く経験、東日本大震災でのメディア対応では、情報発信内容に加え、メディア対応や記者会見運営などのハード面でも日々想定外の事象が発生し、これへの対応も経験してきました。長くなりましたが、ゴールを設定し、そこに至るアプローチ方法をできるだけ数多く検討し、取捨選択のうえ仮説を立てて検証、大小の PDCA を回し常に新しいことを考えてきた、というのが業務に対する一貫した向き合い方だったと思います。

以上のように、これまで必死に走り続けてきたのが実情でしたが、そうした中で、自分が大切にしてきたことが最近言語化できるようになった気がしています。米倉誠一郎先生の著書にある言葉「情報感受性」、この言葉にピンと来ています。例えば、新聞を読んで事実をバラバラに頭の中に入れて知識として持つのか、その事実を繋いでみて、世の中これがここに影響を与えて、こうして動いていて、だから 5 年後はこうなるだろうと考えるのか。つまり、事実をつなげてイメージを膨らませてストーリー化できるか、そうしたイマジネーションが持てているか、という点がとても大事であると感じています。これは私だけでなく、皆さまが既に重要であると感じられている点だとは思いますが、単にアンテナを高くして情報を入れるだけでなく、自分の「想像力」と「創造力」、イマジネーションとクリエイティビティの両方に刺激を与えながら情報感受性を豊かにしていく、こうした日々の研鑽を怠らないように努めていきたいと思っています。

新規入会の会員（正会員）のみなさまの「自己紹介」ページです。今回は、5月にご入会いただきました正会員（掲載希望社）をご紹介します。

(会社名 50 音順)

## 両備ホールディングス(株)



## 両備グループ

想像もつかない世界へ

両備グループは、バス、タクシー、フェリー、路面電車等の交通運輸観光、ソフトウェア開発・販売、データセンター運営などのICT、都市開発を進める不動産、食品スーパーや介護施設・レストラン運営など生活関連の各事業を展開する約40社からなる企業グループです。

1910年創立で110年以上の歴史があるものの、これまで地元岡山での事業展開を主としていたため、岡山ではそれなりに知られている自負はありますが、全国レベルではまだまだ。しかも事業領域が多様で、各社の横のつながりも活発なため、広報案件も錯綜しがち。各分野のプロフェッショナルな仕事ぶりとその成果を、どうしたら分かりやすくお伝えできるのか、悩むことも多いです。これら悩みの解決のヒントになればと入会させていただきました。いろいろ勉強させていただきます。

## PRプランナー資格認定制度／検定試験

### 第34回1次試験申込み受付6月1日(水)から開始 —試験期間は、8月12日(土)～27日(日)まで—

資格委員会

2023年度後期(第34回)1次試験のお申込み受付を6月1日(水)より開始します。

第34回1次試験はCBT方式で、試験期間は8月12日(土)～8月27日(日)の16日間で実施します。本1次試験は広報・PRに関する基本的な知識を問う出題となり、これまでに14,695名が受験し、10,988名が合格しております。

ぜひ受験をご検討いただければ幸いです。

- 全国に開設されたテストセンターで、PCを使って受験していただきます。
- 16日間の試験期間で、ご都合のよい日時・会場を選択できます。
- 受験料のお支払いはクレジットカード払い、コンビニ払い、Pay-easy(ネットバンキング)からお選びください。(手数料は無料です)
- 今回は定員の制限なくお申込み可能ですが、ご希望の日時・会場が先約で埋まってしまう場合もありますので、お早めにお申込みください。

#### 【1次試験 お申込みから合否通知までの流れ】



#### 【PRプランナー資格認定制度／検定制度 第34回1次試験 実施概要】

試験期間	2023年8月12日(土)～8月27日(日)
仮申込み期間	2023年6月1日(水)正午～2023年7月28日(金)23:59まで ※PRプランナー資格制度Webサイトでのお申込みとなります。(本申込に必要な受験コードを取得)
本申込み期間	2023年6月1日(水)正午～2023年8月4日(金)23:59まで ※CBTS Webサイトにユーザー登録後、同サイトでの本申込みとなります。(受験日時・会場選択、受験料のお支払い)
合否発表	2023年9月6日(水)正午
試験出題数／試験時間	50問／80分
合格基準	全出題数に対して正答率70%以上で合格
対応公式テキスト	広報・PR概説(2023年度版)

試験スケジュールにつきましては、変更する可能性もございますので、下記のPRプランナー資格制度Webサイトでご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

PRプランナー資格制度Webサイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>





## 調査レポート

# 広報・PRのプロフェッショナルを「育成すべき」79%

# 広報業務の「プロ化に関心ある」64%

～パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査～

資格委員会

(公社)日本パブリックリレーションズ協会では、昨今の広報・PRの人材育成の実態を明らかにし、今後の広報・PR業務向上の参考にするため、2023年1月23日から2月8日に一般企業を対象とする「パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査」を実施いたしました。その結果、企業の広報担当者は、業務領域の多様化、専門化が進む中で、広報業務をより高度なプロフェッショナル職として位置付ける必要があると考えている様子が浮かび上がりました。

広報・PR業務の人材育成において重要な課題である「広報・PR業務のプロフェッショナル育成」について、78.6%の企業広報担当者は「育成するべきである」と回答しています。実際に「広報担当者のプロフェッショナル職を導入している企業」は12.0%にとどまりますが、「広報業務のプロ化に関心がある企業」は64.1%と、広報・PR業務のプロ化に向けて高い関心が寄せられていることがうかがえます。

企業の広報部門における取り扱い業務は、「メディアリレーションズ」91.1%を筆頭に、「危機管理広報」、「経営戦略／コーポレート・コミュニケーション」「ブランド・コミュニケーション」などが上位を占めます。近年の企業課題である「サステナビリティ経営、SDGs／ESG」などの広報部門単独での取り扱いは1割台ですが、他部署との連携で取り扱っている企業は56.8%にのぼります。一方で「IR」や「マーケティング・コミュニケーション」などは半数以上の企業が広報部門以外での取り扱い業務となっており、こうした広報関連領域の業務の取り扱いの多様化も企業組織の多様性や変化とともに進み、特定の広報関連領域については専門部署化が進んでいることがうかがえます。

調査の概要は以下の通りです。

## < 記 >

### 「パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査 2023」

- ◇調査期間 2023年1月23日～2月8日
- ◇調査方法 インターネット調査(専用アンケートフォームによる回答を依頼)
- ◇調査対象 日本パブリックリレーションズ協会の企業会員登録している613名(会員企業)、非会員企業996社、計1,609件。
- ◇回収数 192件(回収率11.9%) \*会員企業107件(17.5%)、非会員企業85件(8.5%)
  - ◆会員企業 有効回収数の55.7% 非会員企業 有効回収数の44.3%
  - ◆回答企業の設立年代 1969年以前-65.6%  
1970年～1999年-16.1%  
2000年以降-18.2%
  - ◆回答企業の本社所在地 東京都-67.7%  
関西エリア-15.6%  
それ以外-16.7%
  - ◆回答企業の従業員規模 501人～5000人-40.6%  
5000人以上-40.1%  
それ以外-19.3%
- ◇調査機関 株式会社ハミングバード

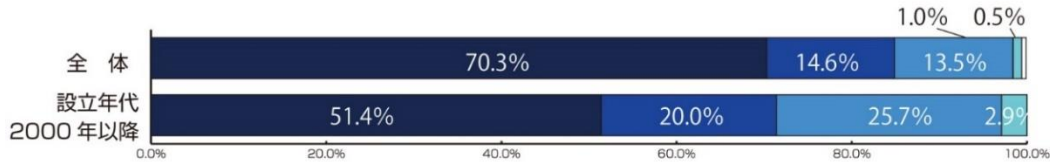


## ■調査結果の主なポイント■

### 広報・PR業務の担当部署について

部署として独立して広報・PR業務を担当し、広報専任担当者がある企業は、全体の70.3%。ただし、2000年以降に設立した企業では51.4%。

Q. 貴社の広報業務を担当している部署、あるいは広報担当者の状況について、最も当てはまるものについてお答えください。(SA、N=192、設立2000年以降N=35)



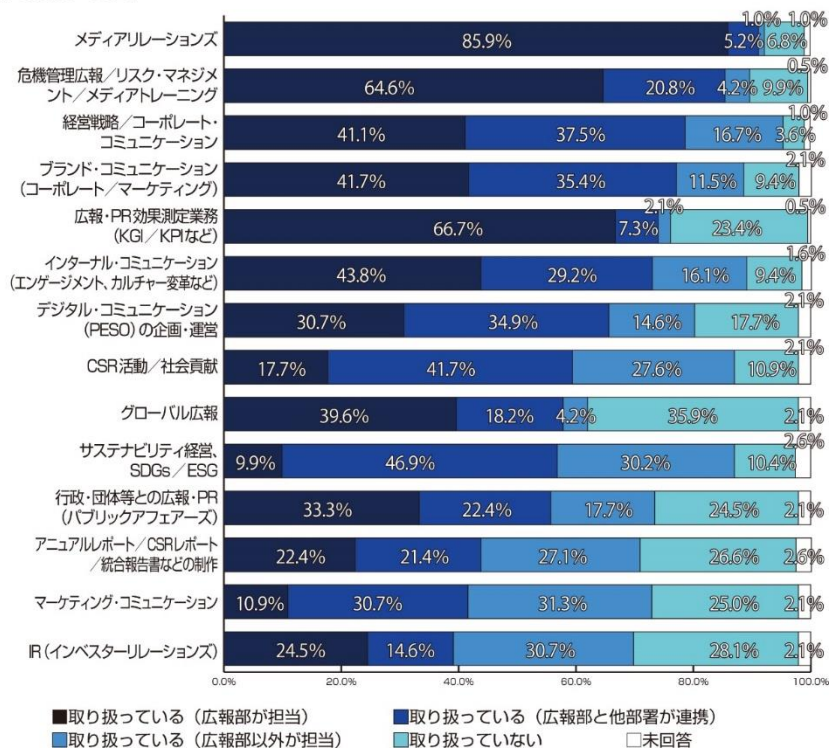
- 独立した部署が広報業務を担当/分掌している (広報部など)
- 他の業務と兼務する部署が広報業務を担当/分掌しており (総務部など)、その部署内に、広報専任の担当者がある
- 他の業務と兼務する部署が広報業務を担当/分掌しているが (総務部など)、その部署内には、広報専任の担当者はいない
- 広報を担当/分掌している明確な部署はないが、広報専任の担当者はある
- 広報を担当/分掌している明確な部署はなく、広報専任の担当者はいない
- その他

### 広報部署で取り扱っている業務

他部署と連携して行っている業務まで含めると「メディアリレーションズ」が91.1%、「危機管理広報」が85.4%と高い数字となっています。次いで「経営戦略/コーポレート・コミュニケーション」、「ブランド・コミュニケーション」、「インターナル・コミュニケーション」などが7割を超え、今の企業広報部署の主たる業務範囲が見えてきます。

一方、「IR」と「マーケティング・コミュニケーション」は、「会社で扱っていない」を含めると、広報部署の業務範囲から半数以上はずれていることがわかりました。

Q. 広報業務について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(各SA、N=192)



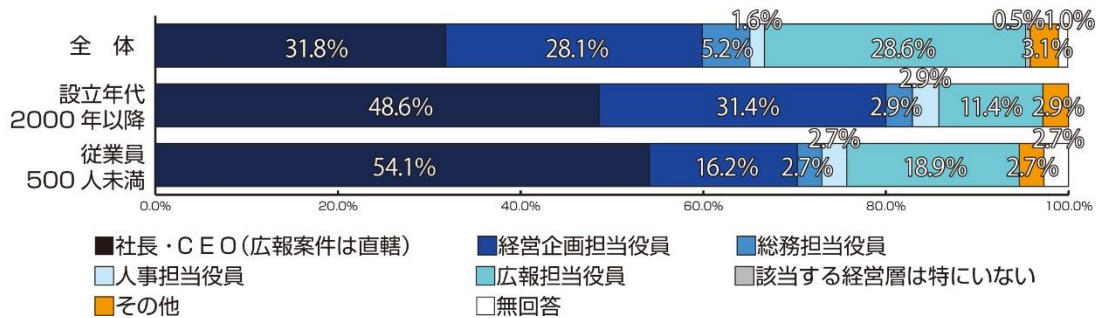
## 広報部署の組織上の位置づけ

業務に関わる報告・指揮命令系統上のトップは誰かという問いに対して「社長・CEO直轄」が31.8%、「広報担当役員」28.6%、「経営企画担当役員」が28.1%と大きく3つに分かれることがわかりました。ただし、2000年以降の設立企業や500人未満の企業では半数以上が「社長・CEO直轄」となっています。

Q. 広報業務に関わる報告・指揮命令系統上のトップは、どの役職の方ですか。

※レポートライン上、広報担当役員等のさらに上の方がいる場合、その方の役職をお答えください。

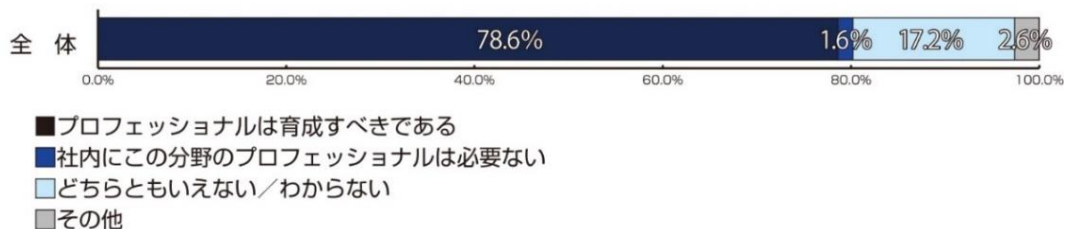
(SA、N=192、設立2000年以降N=35、従業員500人未満N=37)



## 広報・PR・コミュニケーション担当者の育成、スキル向上について

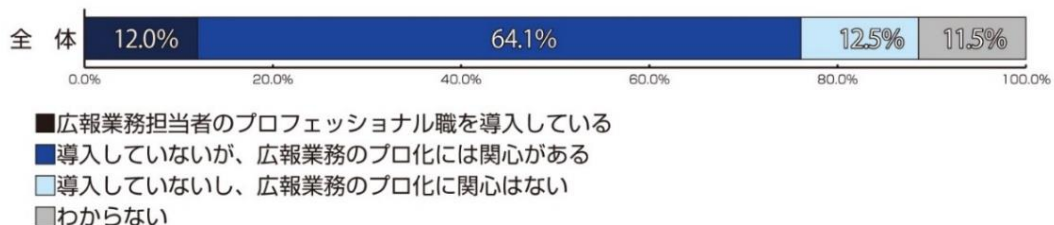
「プロフェッショナルは育成すべきである」と回答した企業がほぼ8割の78.6%にのびました。実際のプロフェッショナル職導入に関しては、「すでに導入している企業」は12.0%でしたが、「プロ化に関心がある」企業が64.1%と導入済みの企業と関心がある企業が8割近い数字にのびることがわかりました。

Q. 貴社の広報・PRやコミュニケーションの担当者の育成、スキル向上（プロ育成）について、どのようにお考えですか。(SA、N=192)



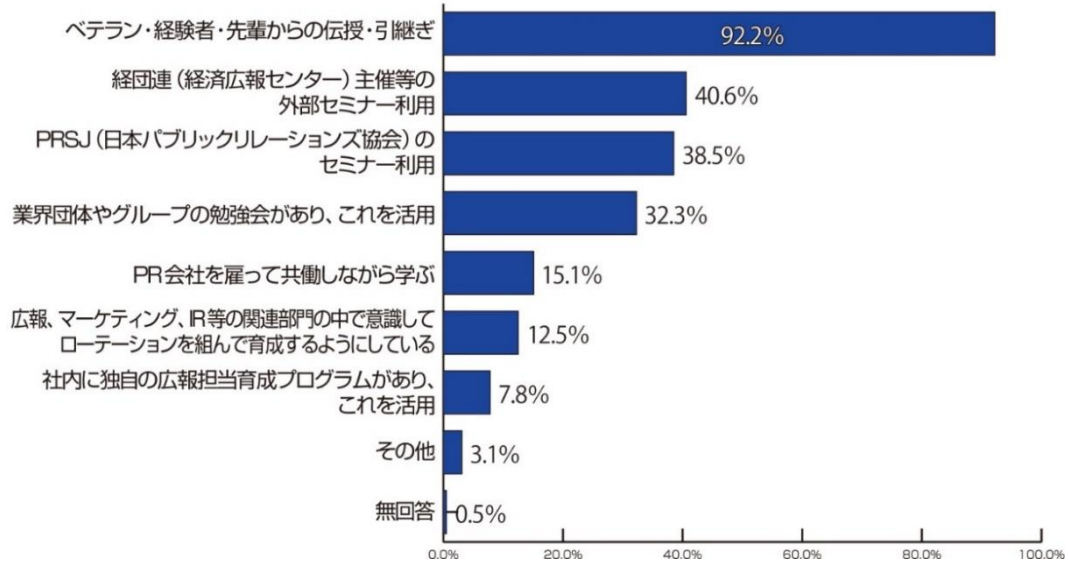
Q. 貴社では、広報業務の担当者に対するプロフェッショナル職（専門職）の導入をされていますか。導入されていない場合、貴社では広報業務のプロ化に関心をお持ちになっていますか。

(SA、N=192)



実際の育成方法については、「ベテラン・経験者・先輩からの伝授・引継ぎ」が 92.2%を占め圧倒的にトップ。3割から4割の企業が当協会で開催している講座・セミナー含め何らかの外部セミナーを利用していることがわかりました。

Q. 貴社の広報業務を担当している部署では、広報担当者の教育・育成をどのようにしていますか。  
(MA、N=192)



※調査結果の詳細は、日本パブリックリレーションズ協会の Web サイトの下記ページからもご参照いただけます。

「パブリックリレーションズ（広報・PR）業務と人材育成に関する調査 2023」  
[https://prsj.or.jp/shiraberu/hr\\_development\\_report2023/](https://prsj.or.jp/shiraberu/hr_development_report2023/)

**パブリックリレーションズ実務講座 2023****「パブリックリレーションズ入門Web講座」****5月18日開講に向け動画収録を完了****教育委員会**

協会では、新入社や異動により新たにパブリックリレーションズ業務に就く新任実務者を主な対象とする「パブリックリレーションズ入門Web講座」を5月18日からオンライン開講します。

本講座では、パブリックリレーションズの新任者を中心とする受講者に、業務に求められる基本的な知識を学んでいただきます。今回は9名の講師の協力のもとに4月下旬に全9講座の動画収録を完了、編集や確認など開講に向けた準備を進めています。

講師には、それぞれの担当分野に精通した方々を迎え、受講者は業務の基本をはじめ、企業広報、マーケティングPR、危機管理広報、デジタル・コミュニケーション、広報関連法規、SDGsなどに関する幅広い知識を習得することができます（講座タイトル及び講師は下表参照）。

講座の詳細ならびにお申込みは、下記の協会Webサイトの講座ページをご覧ください。

<https://prs.j.or.jp/event/entry-course2023/>

なお今年度、ニュースリリース、メディアリレーションズの基本については、演習を交えた対面形式の講座として開講します。詳細については、5月中旬以降に別途ご案内いたします。

コースA 「パブリックリレーションズの基本」		
A-1	「『パブリックリレーションズ』の基本」	北見幸一氏(東京都市大学 都市生活学部/大学院環境情報学研究科准教授)
A-2	「企業広報の基本と実際」	岩切正哉氏(企業広報コンサルタント)
A-3	「これからのマーケティングPR」	永淵雄也氏((株)博報堂 クリエイティブコンサルティング局 チームリーダー/クリエイティブディレクター)
コースB 「パブリックリレーションズの重要分野」		
B-1	「SDGsとパブリックリレーションズ」	半澤 智氏(日経BP「日経ESG」副編集長)
B-2	「危機管理広報の重要性とその基本」	松本 太氏((株)電通PRコンサルティング ステークホルダーエンゲージメント局 エグゼクティブチーフコンサルタント)
B-3	「広報・PR パーソンが知っておくべき法的ポイント」	鈴木悠介氏(西村あさひ法律事務所 弁護士)
コースC 「メディアリレーションズの基本」		
C-1	「メディアリレーションズの基本」	上岡典彦氏(エバラ食品工業(株) 執行役員 経営企画本部長)
C-2	「デジタルPRの基本」	飯田真吾氏((株)クラウドワークス 広報責任者)
C-3	「企業広報に向けたメディアの期待」	安部順一氏(中央公論新社 代表取締役社長)

※お申込みにあたっては必ずWebサイトの講座ページをご確認ください。

(事務局・真部)

**【会員限定】****第 42 回広報ゼミ開催レポート  
企業の変化を支える広報の役割と要諦  
～Z ホールディングス株式会社の取り組みから****企業部会**

今回の企業部会広報ゼミは、「企業の変化を支える広報」をテーマに、PRSJ副理事長であり、Zホールディングス株式会社 執行役員 コーポレートコミュニケーション統括部長／LINE株式会社 執行役員 広報室長 伊東由理氏を講師にお迎えし、2023年3月20日(月)16:30より、リモートとリアル参加のハイブリッド形式で開催いたしました。会場にて14名、リモートにて46名の皆さまにご参加頂き、リアル会場としては、東京ミッドタウン日比谷内にあるパナソニックホールディングス株式会社の会議室をご提供いただき、品格溢れるすばらしい空間でのセミナーとなりました。

**第 22 回企業部会フォーラム開催レポート  
オンライン時代の企業広報と  
メディアのコミュニケーションについて****企業部会**

2023年3月29日(水)16時15分から、「第23回企業部会フォーラム」が東京・八重洲の近畿大学 東京センターを会場として、会場とオンライン参加のハイブリッド形式で開催されました。今回はコロナ禍前後の変化を踏まえた「オンライン時代の企業広報とメディアのコミュニケーションについて」をテーマに、株式会社ニューズピックス 編集部 畑仁 優鋭(はたに うたい)氏、株式会社毎日新聞社 経済部長 柳原 美砂子(やなぎはら みさこ)氏、日本放送協会 報道局経済部 記者 News Reporter 西園 興起(にしぞの こうき)氏をお招きし、コロナ禍での具体的な事例や変化点についてご講演いただいた後に、参加者との質疑応答や意見交換が行われました。会場では企業部会幹事含む23名と、リモートで62名が参加しました。



## 協会掲載記

● 5月1日（月） 『月刊広報会議』（宣伝会議）6月号

『月刊広報会議』2023年6号における連載コラムで、当協会が実施したアンケート調査「パブリックリレーションズ（広報・PR）業務と人材育成」の結果報告について掲載されました。

コラムではまず調査機関、回答数について触れられ、さらに広報部が担当する業務内容、報告・指揮命令系統、さらに広報部門におけるプロフェッショナルの導入状況などに関する調査結果が紹介されています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]



事務局の青田です。

ゴールデンウィーク明けの5月8日から新型コロナが感染法上の2類から5類に引き下げられ、社会全体がまた動き始めた様子ですね。協会活動も徐々に対面型が復活しつつあり、セミナーや交流会が会場参加可能なハイブリッド形式になったり、運営委員同士の懇親会が開かれたりと、みなさんの笑顔がはじける瞬間が目に見えて増えてきました。ウレシイ限りです。

■「PRSJの活動をもっと知ってもらう3日間」、盛況のうちに終了！

4月17日、19日、21日のいずれも16時から、協会の上質な活用法を解説するオンライン説明会を開催しました。うれしいことに、3日間でのべ100名を超える方々（非会員含む）に申し込み・参加いただき、“実は宝の山”のPRSJを最大限に活用していただく方法をご説明させていただきました。説明会后に早速入会された方もいらっしゃいました！

内容については、あらためて次回の協会ニュースで概要をご報告しますが、今回の説明会は録画してありますので、今後、新入会の会員のみなさんはもとより、あらためて協会活動を知りたい方にもご視聴いただけるよう態勢を整えていきます。ご期待ください。

■総会は6月15日（木）。懇親会もやります！

通常総会は6月15日（木）16時から開催することになりましたが、久しぶりに総会後の懇親会を実施することにしました。待望のリアル交流の場ですので、正会員のみなさまは奮ってご参加ください！（総会も出席してください・・・笑）。会場は千代田区一ツ橋の「如水会館」です。国際文化会館ではありませんのでお間違いなく。

コロナ禍の昨年6月に事務局長として人知れず“フェイドイン”した私としても、みなさんにお目にかかることを心の底から楽しみにしています。ぜひリアルにお会いしましょう！

（事務局長 青田）



編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。

中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

広報委員会

Eメール [mail@prsj.or.jp](mailto:mail@prsj.or.jp)

※禁転載

**公益社団法人日本パブリックレーションズ協会**

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

関西支部 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F